

ベトナム、第 8 次電力計画調整案を策定

2025 年 2 月 28 日 作成

カテゴリ ベトナム市場調査 環境・再生可能エネルギー

ベトナム、第 8 次電力計画調整案を策定

ベトナム商工省は「第 8 次電力計画」の調整案を策定し、関係各所の意見を収集している。2 月 12 日には審査会議が開かれ、電力需要予測や投資計画について議論された。

本計画の主な目的は、ベトナム国内の電力供給の確保、電力の直接取引およびクリーンエネルギーの輸出促進である。計画案では、2030 年までに電力需要が年平均 10.3～12.5%増加すると見込み、発電能力拡大のため 30.7～40 億ドルの投資が必要とされた。主に民間および外資系企業からの資金調達が求められる。

再生可能エネルギーの導入拡大も課題とされ、太陽光発電の容量は 18GW から 34GW に、風力発電は 19.5GW から 22GW に増強される予定である。しかし、小規模太陽光発電の急増により、電力管理や規制の強化が求められる。また、LNG 発電プロジェクトの進捗が遅れており、価格設定の明確化が必要と指摘された。

地域間の電力供給バランスの問題も浮上しており、北部は電力不足、中央部は余剰が生じているため、均衡ある投資分配が求められた。特に、中央部の再生可能エネルギーの活用を強化し、経済発展を促進する戦略が必要とされた。

さらに、電力供給の安定化に向け、電力貯蔵や水力発電の最大活用、原子力発電の再開が検討されている。ベトナム政府は 2030 年までに少なくとも 3 か所で原子力発電所を建設する方針を示した。また、送電網の強化策として、スマートグリッドや海底送電ケーブルの導入が提案された。

電力市場の自由化も進められ、競争的な発電・販売システムの導入が計画されている。政府は、各電源の適正な価格設定を行い、投資誘致を促進するとともに、送電コストを適正化する方針を示した。

以上